

## 村上 松平 議員

(一括質問方式)



- ①就学前児童の虐待からの保護
- ②大洲市民文化会館
- ③大洲市防災センターの役割

### 就学前児童の虐待からの保護について

**問** 子供や保護者の相談支援等により問題を解決する保育ソーシャルワーカーを配置してはいかがか。

**答** 本市では、児童虐待の早期発見及び対応を図るため、要保護児童対策地域協議会を設置し、児童相談所など関係機関が相互に連携しながら対応しています。保育所等では登園時や保育中に子供の身体、心身の異常の有無を確認し、虐待の疑いがあれば直ちに家庭相談員に連絡するとともに、必要に応じ家庭相談員から児童相談所へ相談、通告することで虐待の早期発見及び対応に努めています。

また、日々の保育の中で子供の発達が心配な場合は保健センターに相談し、こども発達支援室の窓口相談や巡回相談を利用されています。さらに、入園時や家庭環境の変化に併せ家庭訪問を実施し、子供の育ちや家庭環境を把握して保育に生かしています。

子育て支援課に配置の家庭相談員は、虐待の事案だけでなく子供や家族の様々な問題に対応できるよう、専門的知識を有する経験豊富な教員及び保育士OBを各1名配置しています。家庭相談員が保育士や保健師などと幅広く連携することで、保育ソーシャルワーカーと同等の役割を果たせていますが、今後必要があれば検討する考えです。

### 大洲市民文化会館について

**問** クラシックに理想的な残響は2.0秒と言われる。大洲市民文化会館を南予で最上の音響設備を持つホールにしてほしいがいかがか。

**答** メインホールは、クラシックや演劇など一つのコンテンツに特化した専用ホールではなく、多様な演目に対応した多機能ホールを検討しています。

市民ワークショップやアンケートでは、吹奏楽や邦楽、声楽、伝統芸能など、市民の練習、発表の場として、またプロの公演など多様な演目に対応でき

るホールが求められています。また、次代を担う子供たちに質の高い様々な演目の文化芸術に触れる機会を創出することで、思い描くそれぞれの夢や将来像の実現に向けた手助けができるホールとします。

多機能ホールは近年の技術革新で、平均的な音ではなく残響時間を調整する可変設備等を使用し、演目に応じた高水準の音質を確保することが可能です。よい音が提供できるよう施設整備に努めます。

### 大洲市防災センターの役割について

**問** センターを防災教育の場に活用しては。

**答** 市内の小学校では、これまでも社会科見学や総合的な学習の時間、遠足などで防災センターの施設見学や、国土交通省と協力し肱川流域の地形や過去の洪水などの説明をしたり、排水ポンプ車の紹介などをしています。

防災教育は、現在、国土交通省も重点的に取り組み、小学4年生の社会科の授業では、肱川の洪水に特化した教材集を各小学校に配布し、令和3年度は新谷・長浜小学校で職員が授業を行っています。

また、センターを活用して防災教育できるよう、令和3年度は国土交通省が研修室の床に肱川流域の航空写真を貼り、これを利用し



防災センター（研修室）

て子供たちは洪水が起こる過程を学べるほか、自分の住所と川の位置関係も一目で分かります。

現在は消防団女性分団と協力し、肱川増水時の行動を児童に分かりやすく伝えられるよう劇の準備を進めています。本市も新谷小学校の授業に危機管理課職員が参加し、自主防災組織や消防団の活動などを説明し、地元消防団員はポンプ車の放水を披露しています。

今後も教育委員会と連携し、児童生徒の防災教育の推進や、自主防災組織や消防団が訓練等で防災センターを活用できるよう整備を進めます。



防災センター（野外研修場所）